

部局の研究力強化に資するURAの役割

村田 卓也*、池田 郁子、田上 款

京都大学学術研究支援室 (Kyoto University Research Administration Office, KURA)

要旨

京都大学防災研究所（防災研）では、研究所の研究推進を目的に、部局として**研究企画推進室会議**を開催している。本研究の教員を中心に構成される本会議に、学術研究支援室（KURA）から**発表者が3年間参加**しており、大型資金情報や科研費の採択情報、IR情報を提供するなどの役割を担っている。特に、現ベテラン教員がもつ大型資金獲得のノウハウをどのように次世代の研究者に継承するかという課題を中心に、部局のURAとして研究者と議論を重ねてきた。今回は、このような部局の研究力強化に資する事例紹介を通じ部局の研究力強化について議論したい。

防災研 研究企画推進室会議とは？

	構成メンバー	URAが大きく関与する議題	開催頻度
防災研の教育研究担当 副所長が主催する部局 の研究力強化を目的と した会議体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室長（副研究所長の兼務） ・ 教員 複数名 ・ URA 1名（村田） ・ 事務職員 複数名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大型科研費の獲得に向けた企画・実践 ・ IR情報の提供（科研費、書誌情報） ・ 大型・民間財団の研究資金情報の提供 ・ 上記以外にも議題は多々あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月一回

防災研の研究力強化に関する課題とURAが主体となって活動した事例

課題 1	大型科研費獲得
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文科省の「突発災害調査研究」といった災害調査研究費だけでなく、研究者個人のキャリアパスを見据えた自身の科研費を獲得すべき。 ・ 大型科研費を獲得されているベテラン研究者の退官ラッシュが迫っている。
施策 A	<p>ベテラン研究者が持つ、大型科研費の獲得ノウハウを中堅・若手研究者に継承する。</p> <ul style="list-style-type: none"> → 防災研における基盤Aの採択経験者による体験談を防災研教員で共有する。 2020, 2021年 KURAの主催で防災研に特化した科研費セミナーとして開催。 2022年 防災研の主催で防災研座談会として開催。
施策 B	<p>基盤（A）採択を目指す研究者に対する積極的な申請支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> → 科研費不採択レビュー（前年度の申請が不採択だった理由を研究者とURAと一緒に分析する）。 2020年 URA2名でレビュー。2021年 研究者3名とURA2名でレビュー。 → 研究構想の段階で研究者+URAでレビュー。 2022年開催 → レビューア－2名、申請予定者2名、URA1名が参加したレビューを2回実施。URAが調書完成までフォローアップ。
課題 2	IR情報の提供
理由	<ul style="list-style-type: none"> 課題1の活動のフィードバックのために科研費の採択情報が必要。 共同利用・共同研究拠点として、年次報告書作成のための書誌情報が不可欠。
施策	<ul style="list-style-type: none"> 基盤（A）の採択状況を中心とした科研費の採択情報の提供。 書誌DBから防災研所属研究者それぞれの書誌情報を抽出するマニュアルを事務職員に提供。
課題 3	民間財団公募情報の提供
理由	<ul style="list-style-type: none"> 科研費同様、研究者個人のキャリアパスを見据えた研究資金を獲得すべき。
施策	<ul style="list-style-type: none"> 防災研で採択実績のある民間財団資金、一般の民間財団資金情報DBから公募情報を抽出し、カレンダー形式で提供

まとめと展望

- ▶ 防災研研究企画推進室会議に参加して**部局運営に深く関与することができた**。今後、KURAが防災研の研究力強化に資するためのよい下地となると思われる。
- ▶ KURAからの適切な情報提供によって、科研費以外にも防災研の研究資金戦略への関わりが強くなりつつある。
- ▶ ベテラン教員の方々が退職される前に研究資金獲得ノウハウを若手・中堅世代に継承する施策を実行している。今後も大型研究資金の獲得をめぐる問題点を推進室会議全体で課題抽出し、その解決策を企画したい。

